

大人のための社会科

——未来を語るために

井手英策 = 宇野重規 = 坂井豊貴 = 松沢裕作

2017年9月発売 / 250頁 / 本体 1500円 + 税
四六判 / 並製



編集
担当者
から

いまの社会科学は蛸壺化して行き詰まっているのではないかと。社会を分析し、未来に導いていく力を失っているのではないかと。そんな問題意識から、本書の企画はスタートしました。ゴールデンメンバーといえる著者四人が集まり（残念ながら、法学、社会学の研究者は入っていないのですが、それはまた別の機会に）、議論を重ね、何度も原稿を書き直して出来上がった自信作。12のキーワードから切れ味するどく日本社会を読み解きます。

なんとなく未来が不安、なんともいえない閉塞感があると感じている人が、一歩踏み出すことができるようにそっと背中を押す、そんな本です。

カバーイラストは、いま『うつヌケ』（KADOKAWA）が大ヒット中の田中圭一さんに、多様な人々が集う教室を手塚タッチで描いていただきました。（は）

Index



各節は、それぞれ経済、政治、社会、未来を読み解くキーワードを軸に、構成しました。

序 社会をほどこき、結びなおすために——反知性主義へのささやかな抵抗

第I部 歴史のなかの「いま」

第1章 GDP——「社会のよさ」とは何だろうか

第2章 勤労——生きづらさを加速させる自己責任の社会

第3章 時代——時代を分けることと捉えること

第II部 〈私たち〉のゆらぎ

第4章 多数決——私たちのことを私たちが決める

第5章 運動——異議申し立てと正統性

第6章 私——自分の声が社会に届かない

第III部 社会を支えるもの

第7章 公正——等しく扱われること

第8章 信頼——社会を支えるベースライン

第9章 ニーズ——税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える

第IV部 未来を語るために

第10章 歴史認識——過去をひらき未来につなぐ

第11章 公——「生活の場」「生産の場」「保障の場」を作りかえる

第12章 希望——「まだ一ない」ものの力